メキシコ合衆国上院議長及びパナマ共和国国会議長の招待による
各国公式訪問参議院議長一行報告書

団　　長	参議院議長	山崎	正昭
	参議院議員	溝手	顕正
	同	市田	忠義
同　　行	国際部長	側嶋	秀展
	議長秘書	松下	和史
	参事	新妻	健一
	同	頓所	要介
	警護官	山田	文彦

一、はじめに

山崎参議院議長一行は、メキシコ合衆国ロベルト・ヒル・スアルス上院議長及びパナマ共和国ルベン・デ・レオン・サンチェス共和国国会議長の招待により、平成二十七年（二〇一五年）十月二十一日から三十日まで、両国を公式訪問し、両国の議長、国会議員及び政府要人と会談するとともに、視察を行った。

メキシコは、中南米の大国であるが、我が国と四百年以上の関係を有し、伝統的に親日国であり、日墨ＥＰＡにより貿易投資が拡大してきており、十月初旬に大筋合意されたＴＰＰが更に両国の経済関係に影響を与えることが予想されている。また、メキシコ上院からは、参議院との間での交流を推進するための提案がなされていた。

パナマは、パナマ運河を擁し世界の交通の要衝となっており、日本の外航船の多くがパナマ船籍となっているなど､両国は海運の面では緊密な関係にある一方、議会間の交流は概して疎遠であった。

このような状況の下、山崎議長はメキシコに対しては、参議院議長としては十九年ぶりではあるが、七月のバルボサ・メキシコ上院議長（当時）の日本公式訪問からはわずか三か月後に公式訪問を行い、パナマに対しては、日本の国会議長として初めての公式訪問を行った。

以下に山崎議長一行の訪問の概要を報告する。

二、日程

議長一行の日程は以下のとおりである。

十月二十一日（水）

東京発

米国ヒューストン経由

メキシコ・シティ着

十月二十二日（木）

ペニャ・ニエト大統領への表敬
ヒル上院議長との会談
堀口九萬一氏顕彰プレート視察
上院特別セッションでの演説
サンブラーノ下院議長との会談
下院議場参観
ヒル上院議長主催一行歓迎夕食会
十月二十三日（金）
日本メキシコ学院訪問
日墨会館訪問
山崎議長主催答礼昼食会
日本企業関係者との意見交換
十月二十四日（土）
テオティワカン遺跡視察
国立人類学博物館視察
十月二十五日（日）
メキシコ・シティ発
パナマシティ着
十月二十六日（月）
パナマ日本人学校訪問
共和国国会議場参観
デ・レオン共和国国会議長との会談
デ・レオン共和国国会議長主催一行歓迎昼食会
インカピエ外務次官（外務大臣代行）との会談
在留邦人との意見交換
十月二十七日（火）
パナマ運河拡張工事現場（コロン県）視察
パナマ運河通航現場（ミラフローレス）視察
十月二十八日（水）
パナマシティ発
米国ロサンゼルス着
十月二十九日（木）
ロサンゼルス発
十月三十日（金）
東京着

三、会談等の概要

（一）メキシコ

一行のペニャ・ニエト大統領への表敬（ルイス・マシュー外務大臣及びグスマン大統領府長官他同席）においては、山崎議長より、東日本大震災の際、メキシコから緊急援助隊の派遣を始め官民挙げた支援を戴いたこと、また同大統領には、当時メキシコ州知事として義援金を持参して日本大使館を自ら訪問いただき、日本に対する温かい励ましのメッセージを寄せていただいたことに改めて感謝し、両国間にはこれまで四百年以上の交流の歴史があるが、一昨年と昨年の日本メキシコ交流年に際しての両国首脳の相互訪問や秋篠宮同妃両殿下のメキシコ御訪問が実現するなど両国関係は更に強固なものとなった旨指摘した上で、議会間・議員間交流を積極的に推進し、両国の友好協力関係の更なる発展に力を注いでいきたい旨述べた。ペニャ・ニエト大統領は、複数政党で構成されている一行を歓迎するとともに、両国の四百年以上の友好と交流の歴史に言及した上で、日本がアジアで最大の対メキシコ投資国であることを評価し、両国間でＥＰＡも締結済みであるが、大筋合意されたＴＰＰにより両国の経済関係が更に強化されることを期待する旨述べた。また、両国が困難な時に助け合ってきたことに言及した。これを受けて山崎議長は、日墨ＥＰＡの成果、自動車関連企業の拠点であるレオン市への日本総領事館開設予定に触れた上で、ＴＰＰについて、世界のＧＤＰの約四割を占める巨大な経済圏が誕生することとなるところ、議会による承認や国家による批准というプロセスを踏むことが必要だが、両国を始めとする域内経済が大きく活性化することを期待している旨述べた。また、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックにメキシコの大選手団や大応援団を「おもてなし」の心でお迎えできることを心待ちにしており、貴大統領にもその際訪日いただきたい旨述べた。

上院では、一行は山崎議長と旧知のトーレス上院アジア太平洋外交委員長の出迎えを受け、まず、上院執行部会議室でヒル議長に会見した。次いで、バルボサ前議長の出迎えを受けて、堀口九萬一氏の顕彰プレート（注）を視察した。その際、山崎議長は、バルボサ前議長から、上院ベリサリオ・ドミンゲス研究所（同前議長が同所所長を務めている）名の賞状を受領し、一行は、ガンボア制度的革命党（ＰＲＩ、与党）上院会派会長他数名の上院議員から挨拶を受けた。

その後、一行は上院議場における特別セッションに臨んだ。同セッションにおいて、ヒル議長は山崎議長、溝手議員及び市田議員を紹介する演説の中で、堀口氏の功績を讃えるとともに、一九五二年に日本に着任したメキシコ大使の観察も紹介しつつ、日本の歴史的な発展を高く評価し、ＴＰＰや日墨ＥＰＡに言及した上で、日本はメキシコにとって太平洋の市場と文化への扉であるとともに、メキシコは日本が中南米及び北米でその経済的影響力を増加するための戦略的なパートナーであると位置づけ、メキシコにおいて八百以上の日本企業が稼働しており、日系自動車会社により二万人以上の雇用が創出されていることなどを指摘するとともに、日本との間で経済関係のみならず、文化の面においても関係を深化させなければならないと述べた上で、今般の山崎議長の御訪問が、両国の絆をより強

いものとすることに寄与することを願っていると結んだ。

これを受けて山崎議長は、日本人として初めて、上院議場で演説を行った。冒頭、東日本大震災の際のメキシコからの官民挙げての支援に感謝し、日墨両国は「人権の尊重、法の支配、市場経済」といった基本的な価値を共有し、国際社会において幅広い分野で協力を進める戦略的グローバルパートナーであることを指摘の上、一六〇九年にメキシコへ航海中のスペイン船が千葉県御宿沖で座礁した際の救命、一六一四年の支倉使節団のメキシコ到着、その四百年後の一昨年から昨年にかけての日墨交流年と秋篠宮同妃両殿下のメキシコ御訪問、一八八八年の我が国にとっての初の平等条約である日墨修好通商条約の締結、一九一三年の堀口九萬一臨時代理公使によるマデロ大統領一族の日本公使館での庇護と本年のメキシコ上院での本件顕彰及びバルボサ上院議長（当時）訪日の際の顕彰プレートのレプリカの除幕式の実施等、両国間の四百年以上の歴史を回顧した後、留学・研修、日墨ＥＰＡ、一昨年及び昨年の両国首脳の相互訪問等、日墨関係の現状を概観し、両国が交渉に参加し、大筋合意されたＴＰＰについて、発効すれば世界経済の四割を占める広大な経済圏が誕生すると指摘し、これにより両国を含む環太平洋地域で高いレベルの自由化が実現し、加盟各国の経済に良い影響が生まれることを期待すると述べた後、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックにメキシコの大選手団や大応援団を「おもてなし」の心でお迎えすることを心待ちにしているとし、日本とメキシコが「心の隣人」となり、議会間・議員間交流が一層促進され、友好協力関係が一層発展することを祈念すると結んだ（演説内容別添）。

（注）一九一三年のメキシコ革命の最中、ウエルタ将軍によるマデロ大統領に対するクーデターの際、マデロ大統領の親族が日本公使館に駆けつけたのに対し、同一族の友人であり、臨時代理公使であった堀口九萬一氏が同一族を庇護した。メキシコ上院は、本年二月、同庇護に関して日本国民に感謝する決議を採択し、四月、同感謝を記した記念プレートの除幕式をバルボサ上院議長（当時）の下で行った。七月にバルボサ議長（当時）一行が参議院招待で訪日した際、在京メキシコ大使館にそのプレートのレプリカが飾られた。

サンブラーノ下院議長との会談では、山崎議長は、東日本大震災の際のメキシコからの支援に感謝し、参議院議長としては十九年ぶりの訪墨であるが、バルボサ上院議長（当時）の訪日から間を置かず訪問したと述べ、両国間で議会間・議員間交流を進めていきたい旨述べた。サンブラーノ議長は、メキシコの貿易を始め経済面での日本の重要性やＴＰＰの重要性を指摘した。山崎議長は、日墨ＥＰＡの成果や在レオン日本総領事館開設予定についても述べた上で、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックに貴議長や下院墨日友好議連のメンバーを始め多くの方を歓迎したい旨述べた。

その後、一行は下院の議場を参観した。

ヒル議長主催夕食会（アイスプーロ上院第一副議長、サンチェス上院第三副議

長、トーレス上院アジア太平洋外交委員長、ベリスタイン上院議員他出席）においては、一行は、舞踊と音楽も含めて、歓待を受けた。ヒル議長はその挨拶において、山崎議長一行のバルボサ上院議長（当時）の訪日のわずか三か月後の訪墨を評価するとともに、夕食会場とした旧上院の歴史について説明の上、メキシコの偉大な先人の軌跡も感じてほしい旨、民族舞踊とマリアッチの演奏を用意したので、メキシコの文化的多様性を楽しんでいただきたい旨述べた。

これを受けて山崎議長は、一年のうちに議長同士の相互訪問が実現することは稀なことであり、両国間の関係の深さを示しているとし、両国間の強い絆は長年にわたる先人たちの努力の賜であり、これを引き継いでいかなければならない旨、自分の政治家人生の中でもこのような歓待を受けたことは光栄の極みであり、生涯忘れない旨述べた上で、ヒル議長の招待に重ねてお礼を述べ、出席者の健勝と活躍を祈念する挨拶を行った。

山崎議長答礼昼食会（ヒル上院議長、トーレス上院アジア太平洋外交委員長、ベリスタイン上院議員他出席）においては、ＴＰＰの批准・承認手続等が話題となった。ヒル議長は、ＴＰＰ交渉参加十二か国がＴＰＰの批准・承認に関し抱える問題や国内の状況等に関心を有しているという立場から関係者間の会合の主催を検討したいとし、山崎議長が情報共有・意見交換を目的ということであれば協力できるのではないかと応じたことを踏まえ、ＴＰＰ交渉参加国の在メキシコ大使が参加する情報・意見交換の場をメキシコ上院が設けることを検討することとされた。市田議員はメキシコが核廃絶の分野において国際的に指導力を発揮していることを高く評価する旨述べた。ヒル議長は、二〇一七年二月にメキシコ合衆国連邦憲法百周年記念行事を開催するので、これに山崎議長を御招待したいと述べた。

なお、ヒル議長は、メキシコ観測史上最強とも言われたハリケーン「パトリシア」への対策につきオソリオ内相と協議していたため、遅れての出席となったが、多忙の中、駆けつけた。また、トーレス上院アジア太平洋外交委員長は、同ハリケーンの接近を受けて、地元サン・ルイス・ポトシ州で万が一の際に対応できるよう、答礼宴を中座し、同州に赴いた。

日本メキシコ学院（一九七四年（昭和四十九年）の田中総理大臣（当時）とエチェベリア大統領（当時）の合意を契機に一九七七年（昭和五十二年）に開校された、現地日本人学校とメキシコの学校が同一の敷地内に共存する世界でも珍しい教育機関で、本年九月二十八日現在、日本人学校（日本コース）には百四十四名の小中学生、メキシココースには、幼稚部から高等部まで計九百七十一名、全体として、計千百十五名の生徒が通う。）では、春日・マリア・テレサ理事長、渡辺学院長、平居日本コース総校長、ランヘル・メキシココース総校長の出迎えを受け、同学院について説明を受けるとともに、小学三年生による劇を鑑賞し、児童・生徒と交流した。

日墨会館（一九五六年（昭和三十一年）に設立されたメキシコ最大の日系人団

体である日墨協会（会員数約四百五十名）の拠点）では、和久井伸孝会長を始めとする役員等の出迎えを受け、マンガ館を始め、同会館の施設と日本庭園を視察し、日墨協会の歴史や活動状況について説明を受けた。また、同協会は、明年、メキシコで汎米日系人スポーツ大会を開催する予定であること、及び、移民資料館を開設予定であることを紹介した。

日本企業関係者との間では、日墨経済関係等について意見交換した。大筋合意が実現したＴＰＰに関連して、日本企業関係者からは、日本が国際的なルール作りにおいてリーダーシップを発揮していく重要性が強調された。メキシコ経済については、自動車産業等にとって国内需要が小さいという問題、ローカルコンテンツや雇用規則の問題、教育の問題等が議論された。市田議員は国際的に食料主権の問題が議論されていることを指摘した。

テオティワカン遺跡（メキシコを代表する古代遺跡で、世界遺産）では、杉山三郎愛知県立大学特任教授から、同遺跡とメキシコの古代文明の調査・研究について、最新の知見を含めて、説明を受けた。

その後、一行は、国立人類学博物館を訪問し、メキシコの文化・歴史等を概観した。

（二）パナマ

パナマ日本人学校においては、一行は、水谷靖校長から、現在の小中学生十四名と教員五名（校長を含む）等の状況について説明を受けるとともに、一行を迎えるために開催された全校集会に出席し、生徒から、日本人学校について説明を受けるとともに歌の披露を受けた。これを受けて、山崎議長は、生徒の元気な姿に感銘を受けたと述べるとともに、ラグビー・ワールドカップ・イングランド大会での日本チームの活躍や日本人科学者のノーベル賞受賞にも言及して、日本人の活躍には目覚ましいものがあると指摘した上で、日本を離れ困難がある中で、将来の可能性を秘めた子供たちの育成に携わっている方々に敬意を示し、日本とパナマとの友好協力関係の一層の強化と出席者の健勝と活躍を祈念した。

パナマ共和国国会では、一行はまず議場参観を行った。

その後、デ・レオン議長との会談（エルナンデス第二副議長同席）において、山崎議長は、東日本大震災に際してのパナマからの支援及び犠牲者慰霊のためのパナマ市における日本庭園の造成に感謝し、同議長の招待を受けて、「日・中米交流年」と定められ、政治、経済、文化など様々な交流事業が行われている節目の本年に日本の国会議長として初めてパナマを公式訪問したことを光栄に思うと述べるとともに、両国政府間における要人往来に比して、国民を代表する議員同士の交流にはまだまだ発展の余地があると思うとして、今回の訪問を契機として議会間交流を積極的に進めていきたい旨述べた。これに対し、デ・レオン議長は、パナマにおける日本の存在は大きいとし、パナマのインフラ事業に対する日本からの支援に感謝し、日本企業の活動がパナマの経済成長に貢献していることを評

価するとともに、議会間交流に関し、将来パナマ国会から日本に代表団が派遣されることを期待すると述べた。これを受けて山崎議長は、日本とパナマが経済・海運面において緊密な関係を有していることを指摘の上、デ・レオン議長の訪日を歓迎したい旨述べた。エルナンデス副議長は、日本企業との関係で数回訪日しており、日本をよく知っており、日本人の勤勉さを尊敬している旨述べた。

溝手議員は、以前海運業に従事しパナマ船籍の船舶の所有者であったことを紹介の上、パナマ運河拡張工事の完成を楽しみにしている旨と、現在の国際社会において金融や労働の在り方が変化していくことを踏まえる必要がある旨を指摘した。また、ニカラグアで運河建設の動きがあることに注目している旨述べた。

市田議員は、パナマは一院制、日本は二院制であるところ、二院制において緊張関係があることは利点であると考えている旨述べた。

山崎議長は、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックにパナマの選手団やデ・レオン議長を始めとする応援団を「おもてなし」の心でお迎えすることを心待ちにしている旨述べた。

デ・レオン議長からは、明年四月に予定している新パナマ運河の開通式に山崎議長に出席いただければありがたいと述べた。

その後、デ・レオン議長主催昼食会（エルナンデス副議長、デ・イカサ議員他出席）で、一行は歓待を受けるとともに、議会間交流等について意見交換した。

インカピエ外務次官（外務大臣代行、なお、地方での閣議の開催のため、当日全ての閣僚がパナマ市を不在にしており、同次官がパナマ政府を代表して一行を迎えたもの）との会談においては、山崎議長は改めて、東日本大震災の際のパナマからの支援に感謝し、今回、日本の国会議長としてパナマを初めて公式訪問し、デ・レオン議長との間で議会間交流を促進することで一致した旨述べた。インカピエ次官は、パナマ外務省としても日本との議会間交流を支援していきたいと述べた上で、両国政府間の交流の一環として、自らが明年初めに訪日することを計画しているところ、その際は、山崎議長や日本の国会の関係者とも懇談したいと述べた。また、世界各国からパナマへの投資を呼び込んでいきたいと述べた。これを受けて、山崎議長は、経済・海運面での日本とパナマとの密接な関係を指摘した。

溝手議員は、パナマ運河と船舶の問題に関し問題提起した上で、ニカラグアにおける運河建設の動きを注目している旨述べるとともに、中米においては、パナマ以外はカリブ海の方を向いており、太平洋側に関心を持っていないことを問題視している旨述べた。

インカピエ次官は、明年四月に予定されている新パナマ運河の開通式に山崎議長に出席いただければありがたいと述べた。

山崎議長は、二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックにパナマから、外務省職員を含め、多くの選手と応援団を「おもてなし」の心をもってお迎えしたいと述べた。

市田議員からは、インカピエ次官側の同席者（局次長クラス二名と課長クラス二名）が全て女性であることを指摘し、女性が子育てをしながら働くことのできる社会を創る責任が政治にあることを改めて認識したと述べた。

在留邦人との意見交換では、パナマには世界有数の企業の拠点が置かれており、中南米地域でのビジネス展開においてパナマは非常に重要な場所であるとの意見や、日系企業もパナマの重要性を再認識すべきである等の意見が述べられた。また、パナマ日本人学校の生徒の父親からの子供たちが日本から偉い人が来て自分たちの歌を聴いてくれたと言って喜んでいたとの感想を始め、出席者からパナマでの仕事や生活の状況・苦労話等が披露された。

ほぼ一日かけて行ったパナマ運河の視察については、まず、カリブ海（大西洋側）近くのガトゥン湖沿岸（コロン県）で運河の拡張工事現場を視察し、既存の幅約三十三メートルの閘門より広い幅五十五メートルの新閘門の建設を始めとする工事の内容について説明を受けた。その後、太平洋側のパナマ市に近いミラフローレスのビジターセンターで、運河の運営についての説明を受け、実際に二隻の大型船舶が閘門を通過する状況も視察した。

四、おわりに

今回、メキシコとパナマの議会や日本大使館を始めとする関係者の準備により、順調に有意義な日程を実施することができた。

政治・経済・文化等の面で歴史的に成熟した関係にあるメキシコとの間では、議会間・議員間交流を維持・推進することにより、両国の友好協力関係の更なる発展を後押ししていくことが重要である。

これまで議会間交流が概して疎遠だったパナマは、日本にとって海運面等においては極めて重要な国であり、今回の訪問を契機として同国との間で議会間・議員間交流を進めていくべきであろう。

今回の訪問を契機として、我が国とメキシコ合衆国及び我が国とパナマ共和国との間で、議会間・議員間交流を始め、友好協力関係が一層発展していくことを期待するものであり、これにより、今回の訪問の関係者の御尽力に報いたいと考えている。

【別添　メキシコ上院特別セッションでの山崎議長の演説】

ロベルト・ヒル・スアルス・メキシコ上院議長閣下、上院議員の皆様、御列席の皆様、参議院議長の山崎正昭でございます。

メキシコ上院において、最も神聖な場所であるこの本会議場に立ち、国民を代表する皆様方に、参議院議長として御挨拶申し上げる機会を得ましたことは、誠に光栄の至りであります。ヒル議長閣下を始め、上院議員各位の御配慮に、心から感謝・御礼を申し上げます。

あわせまして、東日本大震災における貴国の官民挙げた温かい御支援に、改め

て、深く感謝を申し上げます。いち早い緊急援助隊の派遣決定など、四年前の悲劇に際し貴国が示された友情を、決して忘れることはありません。

（日墨関係四百年以上の歴史）

さて、改めて申し上げるまでもなく、日本とメキシコは、「人権の尊重、法の支配、市場経済」といった基本的な価値を共有しております。そして、国際社会においては幅広い分野で協力を進める戦略的グローバルパートナーであります。

このような友好協力関係の基礎には、四百年以上にわたって、両国の先人たちが育んできた友情と交流の歴史がございます。

一六〇九年九月、スペインのガレオン船サン・フランシスコ号が、メキシコへの航海中、嵐に見舞われ、日本の千葉県沖で座礁しました。地元御宿の人々は、鎖国中であるにもかかわらず、寒さに震える遭難者を自らの体温で暖めるなど、村人総出で献身的に救命にあたったと伝えられます。ドン・ロドリゴを始めとする乗員三百七十三名中三百十七名が救出され、翌年、徳川家康が造らせたサン・ブエナ・ベントゥーラ号で、メキシコに帰国されました。これが、記録に残る両国間の交流の始まりであります。

その後、一六一四年一月、メキシコとの直接通商を目的とした支倉使節団が、アカプルコ港に到着いたしました。一昨年から昨年にかけて、この使節団の四百周年を記念した日メキシコ交流年が開催され、秋篠宮同妃両殿下がメキシコを訪問されたことは、皆様御記憶のことと存じます。

我が国の開国後の一八八八年、両国は、「日墨修好通商条約」を締結いたしました。当時の日本政府の悲願であった初の平等条約であります。この条約こそが、その後の西欧諸国との平等条約締結につながる大きな原動力となりました。メキシコは、日本外交の地平線を拓いてくれた恩義ある国であります。

我が国から榎本殖民団三十五名が、中南米へ初めて組織的に移住したのも、ここメキシコのチアパス州タパチュラ市でありました。一八九七年のことであります。その後も続いた日本人のメキシコ移住は、両国の文化的な絆を深め、緊密かつ実りの多い協力関係を築き上げる基礎となりました。現在、メキシコの日系人は約二万人を数え、前会期で日系下院議員四名が選出されるなど、貴国の一員として活躍していることは、誠に喜ばしい限りであります。

（堀口九萬一氏の顕彰について）

両国の友情を語る上で、忘れてはならない出来事がございます。

貴院は、一九一三年、マデロ大統領の御一族を日本公使館内に庇護した堀口九萬一臨時代理公使を顕彰する決議を本年二月に採択し、四月に顕彰プレートの除幕式を挙行されました。

本年七月、バルボサ前議長閣下が私ども参議院の招待で訪日されたのに合わせ、奇しくも参議院議長公邸とお隣同士でありますアルマダ駐日大使公邸において、

顕彰プレートのレプリカの除幕式が行われました。除幕式には、堀口氏のお孫さんの堀口すみれ子氏御一家、そして、マデロ大統領の御親族にあたられる大使夫人が立ち会われたと伺っております。歴史の不思議な巡り合わせ、日墨の御縁の深さを感じる出来事でありました。

今回の訪問に先立ち、私はアルマダ駐日大使からレプリカを見せていただくとともに、メキシコ上院の顕彰プレート中、唯一の外国人が堀口氏であると教えていただきました。先ほど私どもも、プレートの実物を拝見し、同じ日本人として大変誇りに思った次第であります。

（日墨関係の現状）

今、私が御紹介いたしましたのは、両国の友情を示す数多くの史実のほんの一部に過ぎません。そして、このような友情を基礎として、日墨関係は今も深化を続けております。

例えば、両国の交換留学・研修制度により、一九七一年以降、四千三百名あまりもの若者が学び、各界で活躍しています。また、一九七四年の両国首脳間の合意により設立された日本メキシコ学院は、両国の友好協力関係を象徴する教育施設であり、明日訪問することを楽しみにいたしております。

経済分野を見ますと、二〇〇四年、両国は経済連携協定を締結いたしました。我が国にとっては最初の本格的なＥＰＡであります。締結時、私は官房副長官として、小泉総理に同行して貴国を訪問いたしました。日墨ＥＰＡは、我が国が締結したＥＰＡの中で最も成功したものの一つであります。ＥＰＡ発効後、両国間の貿易量は約二倍にまで増加し、貴国に進出した日系企業数は昨年時点で二・六倍以上にまで増加しました。署名に立ち会った者として、この大きな成功を大変うれしく思っております。

二〇一三年四月には、ペニャ・ニエト大統領閣下が訪日され、昨年七月には安倍総理が貴国を訪問いたしました。その際には、経済、学術、科学技術分野を含む幅広い分野で十四の文書の署名・交換が行われております。

また今月五日には、両国が参加しているＴＰＰ交渉が大筋合意に至りました。発効すれば世界経済の四割を占める広大な経済圏が誕生いたします。これにより、日本とメキシコを含む環太平洋地域で高いレベルの自由化が実現し、加盟各国の経済に良い影響が生まれることを期待いたしております。

（議会の役割）

国家間の友好協力関係の推進には、国民を直接代表する議会間・議員間の交流もまた重要であることは、論をまたないところであります。

私は参議院議長としては、十九年ぶりに貴国を訪問させていただきました。この間、衆議院議長や参議院副議長のほか、中曽根弘文日墨友好議連会長が貴国を訪問しております。また貴国からは、バルボサ前上院議長閣下を始め、下院議長

やトーレス上院アジア太平洋外交委員長などが訪日されております。
　さらには、ＩＰＵやアジア・太平洋議員フォーラムといった議員間の国際会議の場でも、両国議会の代表団が、議論を重ねております。
　私は、このような形で、両国の議会間・議員間の交流が着実に進展していることを心強く思っており、今後も積極的に取り組んでまいる所存であります。

（東京オリンピック・パラリンピック）
　両国の国民同士が直接交流するまたとない機会が、間もなくやってまいります。それは、開催まで五年を切りました、二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックでございます。
　我が国は、安全・安心な環境で、いわば「復興オリンピック・パラリンピック」として、すばらしい大会を開催できるよう、国民が一丸となって努力を続けてまいります。東京に、貴国の大選手団や、大応援団を「おもてなし」の心でお迎えできますことを本当に心待ちにしております。そして、貴国の選手団が活躍され、多くの競技でメダルを獲得されますよう御祈念申し上げます。
　二〇二〇年に東京でお会いできますことを楽しみにしております。

（結び）
　御列席の皆様、一六〇九年に始まった両国の交流は、今日に至るまで一貫して友情に満ち、互いを尊重したものでありました。先人たちは、このような両国関係を維持・発展させるため、懸命な努力を続けてこられました。私どもは、先人たちの遺産である良好な両国関係を更に強化し次世代に引き継ぐため、一層の努力を積み重ねなければなりません。
　東京とメキシコ・シティは、太平洋を挟んだ東西に位置し、地理的にも時間的にも遠く離れております。しかし、距離は両国の友情の障害ではありません。私ども日本とメキシコ合衆国は「心の隣人」と呼び合えるような、心の通じ合う関係になり、そして今後も「心の隣人」であり続けると確信いたしております。
　結びに、今回の私どもの訪問を契機に、日本とメキシコの議会間・議員間交流が一層促進され、両国の友好協力関係がますます発展することを御祈念申し上げ、私の御挨拶といたします。
　御清聴ありがとうございました。